映画語彙レベル分析 CEFR-J Wordlistに基づいて 英語科・3年・竹内桃子

研究目的

- ・映画で楽しく英語を学びたい学習者に配慮し、新たな英語教育媒体あるいは英語学習方法について考察・提案する
- ・自分で実際に見た映画に関しては難易度を数字に起こし根拠を明確にする。

研究課題

- ・対象の英語の語彙のレベルは、日本の英語教育での目的に構築された新しい英語能力の到達度指標であるCEFR-Jに基づく可視化できるのか。
- ・映画によって語彙ベースで難易度の差はあるのか、また差があった場合学習者にどのように提案をしていくか。

CEFR-J とは (<http://cefr-j.org/cefrj.html> より)

CEFR-Jは欧州共通言語参照枠(CEFR)をベースに、日本の英語教育での利用を目的に構築された、新しい英語能力の到達度指標。CEFR-Jの指標は、「言葉を使って何が出来るか」ということを文章で明示する、can do という能力記述子(descriptor: デスクリプタ)を用いて記述される。かつ、すべての項目をさまざまな調査結果を用いて検証したデスクリプタで構成される。

使用するマテリアル

- ・ディズニー映画20本のスクリプト(※選出基準)
- ・TagAnt
- ・CEFR-J Wordlist Ver. 1.5 (2019年4月3日更新版)

分析方法

- ①対象の映画のスクリプトをテキストファイル化
- ②各テキストファイルをTagAntにかけ、Lemmaのリストを作成
- ③映画毎に、各Lemmaをエクセル上でCEFR-J Wordlistに基づいてレベルを付ける
- ④映画毎に、A1, A2, B1, B2, #N/A の割合を出し、比較する

結果と考察

- ・CEFR-Jレベルの割合は、映画毎に異なる(#N/Aの語の割合も影響)
- ・最もAレベルの語の割合が多いのは Frozen (2013)
- ・最もBレベルの語の割合が少ないのは Coco (2017)

- ・最もAレベルの語の割合が少ないのは Monsters' Inc. (2001)

- ・最もBレベルの語の割合が多いのは Beauty and the Beast (2017)

A 平均	51.1%
B 平均	22.0%
#N/A 平均	26.9%

Title (year)	Aladdin (1992)	Beauty and the Beast (1991)	Beauty and the Beast (2017)	Big Hero 6 (2014)	Cinderella (1950)
A1	32.9%	33.0%	32.2%	33.7%	32.5%
A2	18.2%	18.2%	18.8%	18.5%	16.3%
Aレベル	51.1%	51.2%	51.0%	52.3%	48.8%
B1	15.7%	13.4%	17.6%	14.6%	12.0%
B2	8.5%	8.1%	8.8%	9.2%	5.6%
Bレベル	24.2%	21.6%	26.5%	23.9%	17.6%
#N/A	24.8%	27.2%	22.5%	23.9%	33.6%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
総語数	7425	7818	8874	6481	5362
Lemma	1251	1265	1357	1127	985

Coco (2017)	Finding Nemo (2003)	Frozen (2013)	Lady and the Tramp (1955)	Monsters' Inc. (2001)
32.4%	35.6%	38.0%	36.5%	30.5%
16.8%	16.8%	19.5%	16.4%	15.8%
49.3%	52.4%	57.5%	53.0%	46.3%
11.9%	14.5%	14.9%	13.2%	12.8%
4.8%	7.6%	8.0%	5.7%	7.8%
16.8%	22.1%	22.9%	18.9%	20.5%
34.0%	25.5%	19.6%	28.1%	33.2%
100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
8752	8751	8001	504	10044
1122	1121	1028	1010	1426

Peter Pan (1953)	Ratatouille (2007)	The Incredibles (2004)	The Jungle Book (1967)	The Lion King (1994)
36.1%	33.9%	30.7%	33.8%	31.9%
16.8%	20.4%	20.3%	17.6%	15.1%
52.9%	54.3%	51.0%	51.4%	47.1%
11.3%	14.5%	16.6%	14.7%	13.7%
7.8%	8.3%	8.3%	8.4%	8.3%
19.1%	22.8%	24.9%	23.1%	21.9%
27.9%	22.9%	24.1%	25.5%	31.0%
100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

The Lion King (2019)	Toy Story (1995)	Toy Story 3 (2010)	UP (2008)	Zootopia (2016)
34.2%	30.0%	34.0%	39.0%	30.0%
19.1%	15.8%	16.0%	18.4%	16.8%
53.4%	45.8%	50.0%	57.4%	46.8%
17.4%	13.8%	14.0%	13.2%	15.4%
8.5%	7.5%	8.0%	7.7%	7.9%
25.9%	21.3%	22.0%	20.9%	23.3%
20.7%	32.9%	28.1%	21.7%	29.9%
100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
7916	7554	7847	5443	9856
1034	1308	1197	939	1537

まとめと今後の課題

- ・CEFR-JではA1, A2, B1, B2の4つの区分がなく上位レベルのC1, C2レベルは含まれない。(参考:CEFR-J Text Profileの構築, 水嶋, 荒瀬, 内田, 2016)また、データを見る限り、#N/Aとなる単語は固有名詞や難しい単語が多い。#N/Aの単語を詳しく見ていくことで、単語ベースではあるが難易度がより正確にわかると考えられる。

- ・Coco (2017)に関しては、自分で実際に字幕なしで見た際他の作品と比べ易しい語彙だと感じていたため、その感覚を数字で見ることになった。

- ・映画の具体的な語彙とその頻度を可視化したことによって、映画を通じた英語学習のための補助媒体の提案が可能。

- ・映画を易しい順に観る段階的な学習方法が提案できる。